



農作物の健康を守るAIドクター アプリ TENRYO

株式会社ミライ菜園
代表取締役 畠山友史

病気・害虫による被害

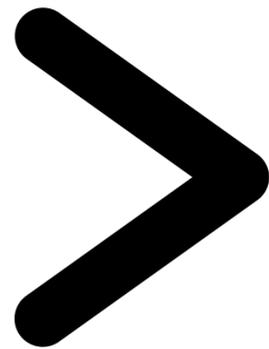


4つに1つを廃棄

病気・害虫による被害



700万t



フードロス



460万t

病気・害虫による被害



700万t

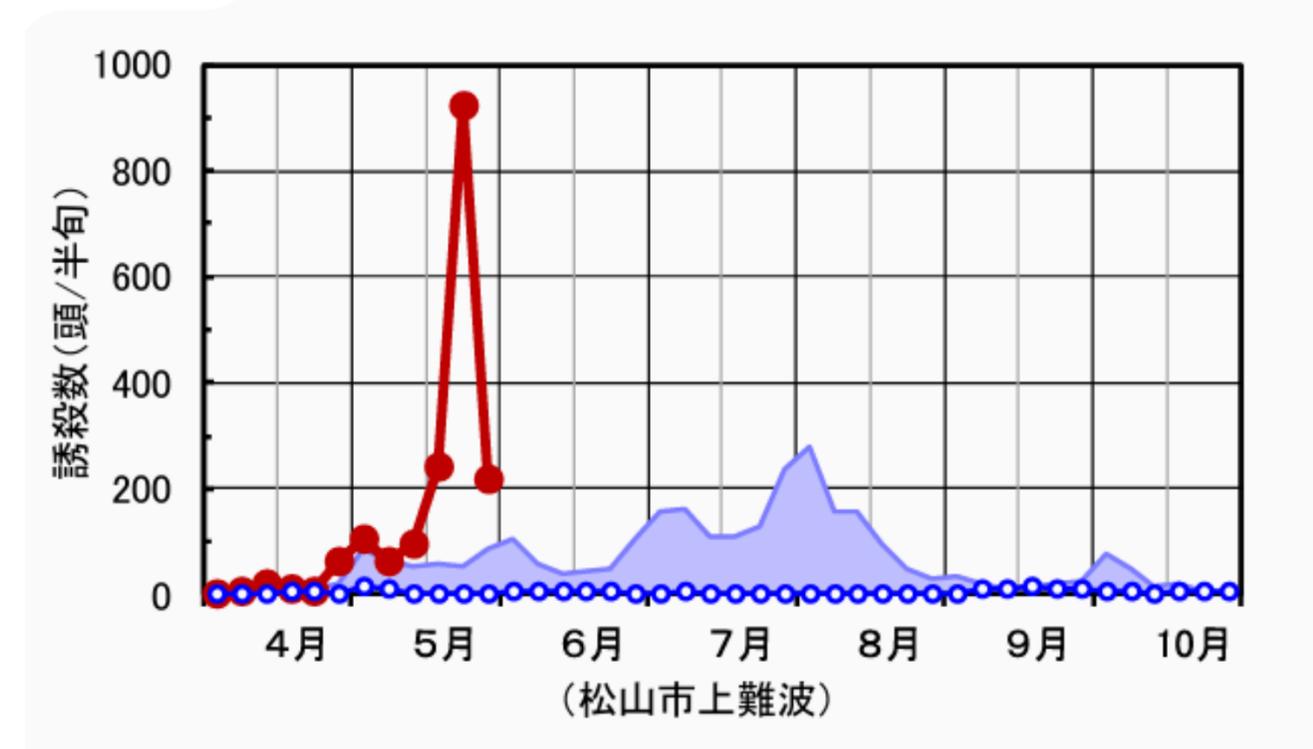
畑の

フードロス

気候変動で変わったこと

タイミング 今までと違う発生ピーク
発生が早い、長引く
量 例年の80倍の発生

勘と経験が通用しない



<https://www.pref.ehime.jp/uploaded/attachment/118331.pdf>

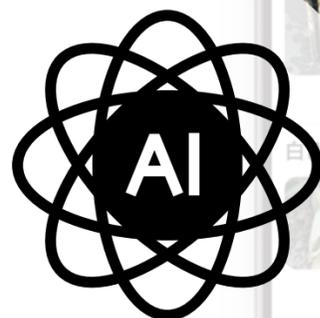
AIドクターアプリ「TENRYO」



いっどんな病気、
害虫が来るか
AIが数日の誤差で予測



AIドクターアプリ「TENRYO」



発生履歴

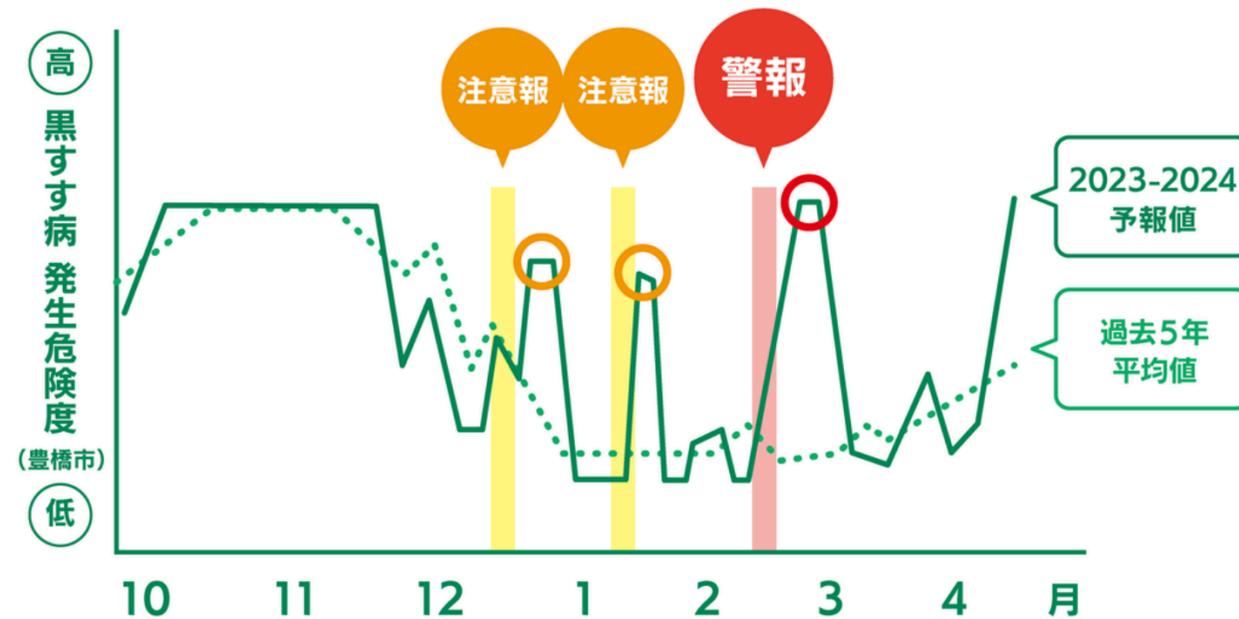
異常気象にも追従

キャベツ・ブロッコリー
タマネギ・柑橘類など
野菜と果樹で23品目に対応

予測技術含め特許6件取得済み

異常気象での予測例

ブロッコリー黒すす病の予報が的中!

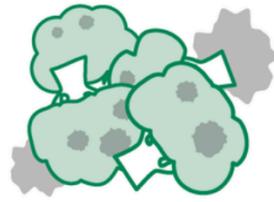


臨時防除
実施



被害最小限

臨時防除
なし



大ダメージ

暖冬の影響をAIが考慮 真冬に3回のアラートを発報 被害を未然に防いだ



発生前に対処できるようになったこともあり

単収が15%増えました

若手ブロッコリー農家 中野さん | 経験3年

JAでの活用事例

JA豊橋：全国有数のキャベツ産地で予報AIが活躍



2025年度よりフェロモントラップによる害虫のモニタリングを廃止。
**AI予報に全面的に切り替え
(JAグループ初！)**

日本農業新聞全国版に掲載

<https://www.agrinews.co.jp/farming/index/326671>

AI予報への切り替え後、2025年度の害虫被害は少なく、高品質な作物

農業は専門分野の集合体

栽培管理

病虫害防除

土づくり

育苗 灌水

施肥 収穫

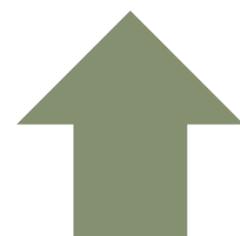
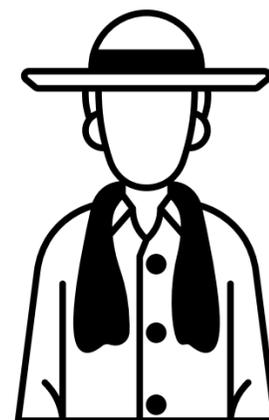
流通

金融

経営

1社ではなく
多企業連携で
生産者を
支援したい！

農業は専門分野の集合体



一つのプラットフォームとして
ふるまう

営農支援企業群



A社

B社



自己紹介



ミライ菜園 CEO
畠山友史

筑波大学でロボット分野の工学博士を取得。
大手電機メーカーで上下水道システムの開発・設計に携わる。
2019年にミライ菜園を設立

農業に進んだきっかけ

地元茶畑の荒廃



工学の専門性×農業 で貢献



MISSION

農作物の健康を守り、
食と農を未来へつなぐ

無事収穫できることが収益向上の一丁目一番地。
どんなに高付加価値の作物でも、良い資材を使っても、
採れなければ始まらない

すべての生産者の所得向上へ

